

第481回

広島大学医学集談会

(平成16年5月6日)

—学位論文抄録—

1. Improvement of Atrial Signal-Averaged Electrocardiographic Abnormalities After Radiofrequency Catheter Ablation in Persistent Atrial Flutter

(持続性心房粗動におけるカテーテルアブレーション後の心房加算平均心電図異常の改善)

三浦 史晴

創生医科学専攻先進医療開発科学講座 (分子病態制御内科学)

【背景】近年、発作性心房細動 (AFL) において、心房加算平均心電図 (PSE) を用いてP波の異常が言われている。

【目的】今回我々は、カテーテルアブレーション (RFCA) 後のAFL例に対して、このPSEを経時的に測定することでAFLにおいて心房内伝導障害が存在し、除細動後に改善するかを検討した。

【方法】PSEで測定したP波長と、電気生理学的検査での心房内伝導時間、心エコーでの各パラメーターとを比較検討した。AFLで、PSE、心エコーをRFCA後1日、7日、1ヶ月後と経時的計測した。発作性心房粗動例のRFCA前後で、同様にPSEと心エコーを検査した。

【結果】①PSEでのP波長は心房内伝導時間と左心房径とよい相関を示した。②発作性心房粗動では、RFCA前後で、PSEのP波長に影響はなかった。③P波長は、RFCA直後は延長していたが、1ヶ月後には、左心房径が変わらないにもかかわらず、短縮した。

【結語】PSEで、AFL例において、心房内伝導障害が存在し、除細動後1ヶ月で改善することが証明された。

2. Initial expression of interferon alpha receptor 2 (IFNAR2) on CD34-positive cells and its down-regulation correlate with clinical response to interferon therapy in chronic myelogenous leukemia (慢性骨髄性白血病のCD34陽性細胞のIFNAR2の

治療前の発現と down-regulation はインターフェロン治療効果と相関する)

伊藤 欣朗

創生医科学専攻先進医療開発科学講座 (血液内科)

慢性骨髄性白血病 (CML) 患者における骨髄 CD34 陽性細胞の Type I IFN レセプター (IFNAR1 (AR1) と IFNAR2 (AR2)) 発現を、flow cytometry (FCM) と real-time quantitative PCR (RQ-PCR) で、血清中可溶性レセプター (sIFNR) を ELISA で測定し、臨床の IFN α 治療効果 (Good, Poor) との関連性を検討した。FCM: AR2 は、初診患者では全体では正常者より高かった。IFN α 治療後 Good 群では AR2 発現が低下したが、Poor 群ではむしろ上昇した。AR1 は全体的に発現量が低く臨床効果との関連性は明らかではなかった。RQ-PCR: 初診時の AR2c mRNA は一部に発現の高い症例があり、IFN α 治療後は Good 群でのみ低下した。sIFNR: 初診患者では正常者より高かった。しかし、初診時値と治療後変化とともに、治療効果とは相関しなかった。*in vitro* IFN α 添加: 初診患者の骨髄単核球を IFN α 刺激すると、Good 群患者でのみ CD34 陽性細胞表面の AR2 の低下が見られた。Daudi IFN α 感受性株を IFN α 刺激すると AR2 と AR1 の低下が見られたが、非感受性株では見られなかった。以上 IFN レセプターの動態と臨床 IFN α 治療効果の関連性が明らかになった。

3. Determination of acrolein by headspace solid-phase microextraction gas chromatography/mass spectrometry and its clinical application (ヘッドスペース固相マイクロ抽出法を用いたガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリーによるアクロレイン測定と臨床応用)

高本 聡

展開医科学専攻病態情報医科学講座 (小児科学講座)

アルキル化剤であるシクロホスファミドやイホスフ